

「町長と話そう、まち育て」タウンミーティング 第1回議事要旨
NPO 法人とっこい Club

日 時：令和4年7月14日（木）10時30分～

場 所：とっこい子育て広場

テーマ：「とっこい子育て広場の将来について」

出席者：NPO 法人とっこい Club、利用者

町長、副町長、民生部長、子ども未来課、総合政策課（事務局）

● 次第

1. 開会
2. 自己紹介
3. 注意事項
4. 町長挨拶
5. 議題

（事務局）

今回のテーマについて、とっこい Club さんからご説明をお願いします。

（スタッフ A）

私たちは子育てするママたちのほっとできる空間・リフレッシュできる場所を提供し、日々の子育ての悩み、ストレスの解消、同年齢の乳幼児を持つ保護者同士の交流、地域のシニア世代との触れ合いなど、笑顔で子育てができるようになっていただくことを活動の目的としています。

とっこい子育て広場は、10時から16時まで利用できます。

一時預かりの時間は、子ども達が泣かずにお預かりできる限度として、3時間としています。

単独事業として、カフェを併設しており、ロケーションがよく、花見の時期は両側から桜が見えるので、みなさんお友達とお弁当持ってきたり、カフェでコーヒーを飲んだり楽しんでもらっています。

スタッフは全員有償ボランティアです。十分な人員の配置によるきめこまかな運営を心がけています。

いろんな企画では、ママたちがやりがいを持って、活動に参加されており、ママ同士でいい関係ができています。

ママたちは、行事が終わるとそれぞれ自分が思ったことを SNS で情報発信され、広報手段のひとつになってきています。

当初の研修会で、「利用者をお客さんにしてはいけません。」と教えていただ

きましたが、それは難しいという状況がこれまで続いていました。利用者さんをお客さんにしてないところってあるのかなと疑問に思っていたのですが、ようやく利用者さんも自分のできる範囲で運営の一助を担っていただくようになってきました。

組織体制です。スタッフは21人いますが、半数以上が70歳を超えています。

2017年頃の平均年齢はまだ69.1歳くらいでしたが、現在は72.5歳になっています。課題としてはスタッフの高齢化ですが、どうやって改善すればよいのか良案が出ません。それに関するアドバイスをいただければと思っています。

また、これからの目標があります。

子育てに土日とか祝日はありません。他の地域では土曜や日曜、祝日にも開けているところもありますが、現状は閉館しています。

カフェの営業時間も今10時から15時半までで、15時15分がオーダーストップ、16時になったら閉店しますが、営業時間の延長の要望もあります。

一時預かりの利用時間の延長についても、病院に行くとしても何かするとしても3時間じゃ足りないと言われていました。

今のスタッフは社会貢献として活動されていますが、今後、待遇の改善を頼まないで継続するのは難しいという思いです。私たちとしてはもっと行政の隙間を埋める活動や、子どもたちの笑顔のために子育てするママたちに寄り添う活動ができれば、とっこいClubの本来の目的により近づけるのではないかなと思います。

(町長)

私の子どもが小さい頃は、とっこいClubのようなところにお世話になっていました。奥さん自身も、気晴らしになったというのは聞いています。子どもだけじゃなく、お母さんのために、非常に良い大事な施設だなと思っています。

お母さんたちの理想をしっかりと見極め、できる範囲を考えて事業を実施されていると思います。

スタッフさんを募集する時は、ビラを配ったり、フェイスブックで広報されたりしたことはないのでしょうか。

(スタッフA)

興味を持ってきていただいている方もいらっしゃいますが、結局経済的なことで断られます。そのため、知り合いの知り合いなどを頼り、口コミで募集をしています。

(町長)

とっこいママ部さんの SNS やインスタを使い、その中でこういう条件ですよ、アルバイト感覚で来られても困りますよ、というのをしっかり表記した上で、活動したいという人を募集できればと思います。

行政の隙間を埋めたいとの発言がありましたが、まさしく行政が全部やる時代ではありません。とっこい Club のような事業を直営で行うのは、困難になっています。

地域の方々のお力を借りながら、住民さんに対するサービスを充実させていくというのが、これからの行政だろうと思っています。

とっこい Club があることは、本当に感謝していますし、これを継続させるために、行政がしっかり寄り添って、話し合いをしていきたいと思っています。

(スタッフ B)

これだけの建物を建てていただいているのに、町民の皆さんの中には、このカフェを知らないという人がほとんどです。近くに住んでいる人たちですら、カフェを利用してもいいと知らなかったと言われます。

私もすぐ近くに住んでいて、大きな看板があるのは知っていたのですが、ここに来る前は活動内容を全然知りませんでした。

スタッフ募集については、金銭的な理由から違う所で働くようにしますと言われるので、若いお母さん達に「おばあちゃんとか仕事してない？」と声かけしていますが、誰も返事がありません。

そこが一番の課題で、私達があと 4、5 年頑張れるかといったところです。

(町長)

人をもう少し増やすことになってくると思いますが、人材を集めるところが一番の課題だということはよくわかりました。

しっかり活動をしていく中で、声かけや、時には SNS を使っていただくことが必要かもしれません。

とっこい Club は、子ども未来課からの受託事業なので、広報紙に施設紹介の特集ページを掲載するとか、知ってもらうための枠を担当に相談してください。

(スタッフ C)

町長が、町からの委託でしてもらっているんだって言われましたね。

人件費をチェックしていただけたら、今、A が言われている意図を、ご理解できると思うんです。だから募集にしても、そこが最終的にネックになって断られることも、ご理解していただけたらと思います。

(町長)

分かりました。要は有償ボランティアの考え方っていう話だと思います。

町の中でも、有償ボランティアで動いている事業もあるので、検討させていただきます。

今後、若い人も入れないと継続できないといった事情を踏まえて、検討していきたいと思います。

(とっこい広場利用者 3 名来室)

(利用者 A)

私は実家が関西で、主人の実家は大牟田です。主人の休みは月に 2 回か 3 回しかなく、ワンオペになりがちな状況でした。

上の子を出産してなんとかやれると思っていたんですが、育児は思ったとおりにいかないことが多かった。

産前産後サポートステーションで、とっこい広場を紹介され、二人目が生まれるんだったら絶対利用した方がいいと教えていただき、産後に利用するようになったんです。

家を建てるときに、主人が実家の近くか鳥栖って言っていたんですが、私はとっこの近くじゃないと子育てができないと言って、みやき町に家を建てました。

3 人目もこの近くなら産めるかなと思っていて、助かります。

パンフレット見ると子育て広場があるのはわかるんですけど、丁寧に子どもをみってくれる施設って他にはないので。

ここを教えていただいたことは、かなり大きかったです。

(利用者 B)

私は実家が宮崎県です。双子の産後がとにかく大変でした。

まだ上の子の助けが必要な時に家に帰ってきたものの、ゆっくり座って過ごすこともできない状況でした。

この先生達が心配してくれたり、ここで知り合ったママも気にかけてくれたりして、なんとか乗り越えて今ここにいます。

(町長)

さっき言われていた、本当に困った時の状況が、少しでも軽くできればみやき町ももっと人口が増えていくのかなって思います。

(利用者 C)

私は、熊本県出身で旦那の実家は飯塚です。旦那の就職先がみやき町の久留米寄り、社宅として借りていたのが久留米市内でした。

旦那の転勤が無くなるタイミングで家を考えて、みやき町は子育てには凄くい

いっていうふわっとしたイメージがあり、町内のアパートに住んで、妊娠したことで、家を建てました。

旦那の仕事は長期の出張もあり、心配もありましたが、大丈夫だろうと思っていました。しかし、子どもが生まれてみると、二十四時間だけじゃなく、ずっと続く環境が、今までの経験では乗り切れないと感じました。

そこで広報紙に載っていたとっこい広場に行ってみると、こんな素敵な場所があるんだっていうので感動しました。

子育てをしている時は、社会から切り離されているような感覚があって、凄く寂しくて置いて行かれている感じがありましたが、ここに来てからはそこがつながった感じがして。

佐賀市内に勤めていますが、こういう場所があるのを知らない、そんな場所があったなら利用しとけばよかったって言われることが多かった。

私はとっこい Club にお世話になったので、もっと必要とされている方がいるのに、踏み出せなかったり、そもそも知らなかったりという環境があるんじゃないかって思ったので、町内町外問わずにお薦めしています。

(町長)

ありがとうございます。広報周知ってやっぱり大事ですよ。

町としては広報紙が一番皆さんにお知らせできるツールではあるんですけど、でもそれだけじゃ足りないんだらうなって。

(利用者 A)

広報紙は子育て中、なかなか見られない場合もあるんですよ。でも母子手帳貰うときや定期検診の時は保健師とゆっくり話ができ、いろんなプリントも見ているので、そういう時に教えていただくとよかったかと思いました。

(町長)

勉強になりました。そういうタイミングを選ぶっていうのも1つの方法だと思います。

町も LINE の公式アカウントを持っているので、LINE で周知してもらうのも1つの方法だと思います。

有効性を感じているので LINE をされているのであれば、ぜひ登録してください。町が伝えたい必要な情報を受け取ることができます。いろんな方法で町と一緒にあって広報をさせていただければと思っています。

とっこい広場のような事業が必要だっていうのは重々理解しておりますし、良い雰囲気を作っているのも理解しています。

6. 閉会

(町長)

今日は貴重な時間を頂きまして本当に勉強になりましたし、意見交換できてよかったです。

皆さんがいい場所だと言ってもらえることを私たちもしっかり認識できました。今度、どう支援していくかを考えたいと思います。

普段でも、私や担当課長にご意見を賜れば検討いたします。ここをしっかりと盛り上げていただきたいと思います。

今後ともよろしくお願いします。